

令和4年度 小松市立安宅中学校 学校評価2

	目標・具体的取組	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p><安心・安全な学校・学級を築き、生徒の主体性を育む。></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部会、生徒理解部会を毎週開催して情報交換し、生徒に前向きな声掛けや仕掛けをタイムリーに行う。 当たり前の行動をしっかりと見取り、褒める認める言葉をかける。 他者を傷つける行為や言動には、毅然とした対応をする。 学校行事・生徒会活動を活性化させ、生徒主体となって活動できる場を増やし、自己有用感の向上を図る。 生徒アンケートを行い、「学校が楽しい」という問いに対し「楽しい」と答える生徒が90%を超えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より生徒指導部会と教育相談部会を合わせた生徒理解部会として、毎週水曜日に実施できた。その中で、現状の報告や今後の指導方針等の確認、共有を行い、生徒の指導に生かすことができた。「学校にいると安心する」、「学校では自分は大切にされている」というアンケート項目に肯定的な回答をした生徒の割合が昨年度に比べ、約10%増加しており、「褒め、認める声かけをする」ことの結果が出ている。 遠足・修学旅行での思いやりの行動をストック運動として全校生徒に書いてもらい掲示した。今後もストック運動を継続していく。 啓発して、生徒どうしのつながりを深めていきたい。 「学校では自分が役に立っていると思う」というアンケート項目で肯定的な回答をした生徒の割合が昨年度に比べ、約10%増加している。学級活動や行事などで、生徒それぞれに役割を与えるなど、意図的な仕掛けができたと思われる。しかしながら、肯定的な回答をしている割合は依然として低いので、文化祭などの行事を活用して、自己有用感をさらに高めていきたい。 「学校が楽しい」と回答した生徒の割合は87%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解部会は毎週実施し、情報共有がしつかりできた。今後は学年会と連携して情報共有に要する時間を節約し、対応の協議に時間を使うようにしていきたい。 T-Sで褒め・認める声掛けが実現され、「学校では自分は大切にされている」という項目に肯定的に回答した生徒が94%になった。今後も継続していく。また、ストック運動によりS-Sでの認め合う機会を増やし、自己有用感、思いやりの心を醸成していく。 生徒会活動や行事での一人一役など、生徒の活躍できる場が意図的に多く設定され、生徒の自己有用感が上昇した。今後は、教師の意図的な仕掛けによって、生徒の活躍の場を増やし、クラスや学校で自分は必要とされていると思えるようにしていきたい。 学校が楽しいと回答した生徒の割合が87%であり、目標を達成できなかった。生徒が主体となる活動をさらに増やし、悩み事を相談できる体制を充実させ、生徒が学校が楽しいと思えるような工夫をしていきたい。
特別支援教育	<p><適切な支援に向けて工夫を行う></p> <ul style="list-style-type: none"> 個別の配慮や支援を必要とする生徒への支援を実際に行いながら、より適切な支援に向けて個に応じた支援計画・指導計画を作成し、全教職員で共有する。 小学校と連携を密にし生徒理解や支援のスムーズな引継ぎを行う。（3～5月、その他必要に応じて） 特別支援教育支援員による支援計画を作成し、計画に即して支援ができるようにする。 生徒の理解や支援について、教育支援委員会を開き、よりよい支援に繋げる。 必要に応じて、関係機関との連携や専門相談員の派遣要請を行い、その際に行った相談やいただいた助言を支援に活かす。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月の校内支援委員会で、支援が必要な生徒（個別の支援計画、支援シートを作成する対象生徒）の確認を行った。プロフィールシートの提出、支援計画や支援シートの作成を担当を中心として行っている。また、7月の職員会議で、改めて書き方について共通理解を図った。 小中連絡会で、小学校の教員（6年担任）から、小学校で行ってきたこと（落ち着いた関係づくりなど）や課題についての引き継ぎを行った。また、その後も必要に応じて関係の先生方から話を聞いている。 特別支援教育支援員の計画を毎週状況に応じて作成し、必要な支援を適切に行うようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な生徒の状況を校内委員会や夏休みの学年会で協議した後、職員会で共有し、生徒の支援計画、支援シートの作成を行った。それらを基に、試行錯誤しながら個別の支援につなげている。 小中学校の連携の会やその他必要に応じて情報を共有し、より適切な保護者対応に繋げることができた。 特別支援教育支援員（2名）学習サポーター（1名）による支援計画と、教員の支援計画を毎週作成し、全体の見直しを持ちながらより良い支援の実践につなげた。 専門教育相談員の先生やセンターの先生から助言を頂き、個々の生徒の状況に応じた実践しやすい支援の仕方や生徒の見取りについてアドバイスを頂いた。具体的で適切な支援を日常続けていくために、継続的に来校して頂き協議していく必要がある。
道徳教育	<p><道徳教育の向上を図り、多面的・多角的な価値観を涵養する。></p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳の校内研修会を複数回開催し、教材分析や発問、言語活動の工夫等、「考え・語り合う道徳」の活性化に向けた授業改善を行う。 普段の学校生活の中で、良い姿をほめたりするなど、意識的な声掛けを行うことで生徒の道徳性を養う。 道徳ノートや授業の様子など生徒の学びを蓄積し、評価に活用することで、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する。 道徳の時間によりよい生き方を考える生徒が85%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の道徳オリエンテーションで道徳科の学び方を周知したこともあり、生徒が授業の中でお互いの考えを話し合う姿がよく見られた。 授業構想シートを用いた流れのある授業づくりを共通実践しているため、生徒の深い学びにつながると感じられる授業が多く見られた。 校内研修会やローテーション道徳で学んだことが道徳の授業の充実につながったと感じている教員の割合は67%だった。 道徳ノートを活用して生徒の学びを蓄積することで、生徒の考えの変容の把握や評価に役立てることができた。また、授業の振り返りを道徳通信で発信し学びを共有する学級が増えた。 導入や終末において、ICT機器を活用し、生徒の考えを瞬時に収集する考えの共有をすることができたため、深く考えさせたい場面にじっくりと時間をとれるようになった。 道徳の時間によりよい生き方を考えている生徒の割合は87%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が構想シートを持ち寄っての指導案検討会やローテーション授業の実施は、様々な考え方や指導方法などに触れることにつながり、教員それぞれの授業構想力が高まった。校内研修会やローテーション道徳で学んだことが道徳の授業の充実につながったと感じている教員の割合は86.6%だった。 運動会をはじめ学校行事前後に実施した、上級生や下級生へのメッセージの中には、道徳の学びが反映されたものが多くみられた。それらを模造紙にまとめて掲示することで広く周知することができた。 T2の役割を意識した授業は、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子や細やかな評価につながった。また道徳ノートや授業の様子など生徒の学びに関する蓄積が広く活用できた。 考えや思いを自分の言葉で発信する力は弱いので、自分の考えを表現する場面を今後も増やしていく必要がある。 道徳の時間によりよい生き方を考えている生徒の割合は89%だった。
情報モラル教育	<p><情報モラル教育を推進し、情報手段を適切に活用できる能力を育成する></p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心として、本校の現状を踏まえた情報モラルの意識向上に向けた取組（安中ネチケットの再考や呼びかけ・啓発など）を行う。 技術・家庭科の授業などにおいて、継続的に情報モラルについて考える機会を設け、意識を高める。 生徒アンケートを元に評価し、SNSとの向き合い方やネットトラブルに対する意識についての項目において、意識している生徒が90%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ネットトラブル防止のために家庭で時間やルールを決め、スマホ等を使用している」という項目の肯定的な回答は、1年生は80%、2年生は69%、3年生は66%と、学年が上がるにつれてルールを決めている家庭が減ってきている。目標としている90%に達していないため、全校集会や学級活動の時間などで生徒に呼びかけて情報モラルの意識向上につなげていく。 保護者に対しては、新入生説明会や学年懇談会の際にSNSとの向き合い方やネットトラブルについて説明した。今後もコドモンなどを活用して、SNSとの向き合い方について周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期は、2年生は学年集会、全校に向けて弁護士によるいじめ予防講座、保健指導でネットにかかわる時間の自覚化などの取組を行ったが、「ネットトラブル防止のために家庭で時間やルールを決め、スマホ等を使用している」という項目の肯定的な回答は、1学期に比べ、1年生は3%増、2年生は2%増となったが、3年生は4%減となった。全体として大きな変化がなく、目標の90%には届いていないので、引き続き、全校集会や学級活動の時間などで生徒に呼びかけて情報モラルの意識向上につなげていく。また、保護者への呼びかけをコドモンなどを通して行っていきたい。
保健健康教育	<p><心身の健康></p> <ul style="list-style-type: none"> 自らの健康・安全・食に関心をもち、快活な学校生活を送ることが出来る。 「睡眠チェック週間」を企画し、実施する。 自分の生活習慣の課題を理解している生徒が80%以上になることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会保健委員会企画「安中睡眠改善週間」を5/31～6/13に実施した。期間中、生徒が睡眠票を記入することで、自身の睡眠状態を「見える化」することができた。この取組により、自分の生活習慣の課題を理解していると答えた生徒は80%を超える結果となった。 睡眠の課題改善につなげるために、9/30の学校保健委員会では、睡眠をテーマとする。生徒・保護者・学校が、睡眠の課題やメリットを共有することで、生徒の睡眠改善に取り組む動機づけを強化することを目指す。また、学校保健委員会後には、第2回安中睡眠改善週間を行い、実践につなげる機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 9/30学校保健委員会後、9/31～10/31第2回安中睡眠改善週間を実施した。睡眠の大切さを学んだ結果、規則正しい睡眠タイプとなった生徒数が増加した。また、生徒アンケートでは、自分の生活習慣の課題を理解していると答えた生徒は92%（1学期比+3%）となった。1/13～1/26には第3回安中睡眠改善週間を企画し、取組を継続していく。 保護者アンケートでは、「学校は子どもの生活習慣の課題を明らかにし、家庭と共有している」74%（1学期比-9%）「子どもは規則正しい食事や睡眠を意識して生活している」68%（1学期比-7%）と減少している。家庭への働きかけとして、12月の個人懇談時に、第2回安中睡眠改善週間で生徒が記入した睡眠票と、保護者向けの保健だよりを保護者に手渡し、第3回安中睡眠改善週間に取り組むわが子への励ましのメッセージを記入していただいた。次年度は、学校保健委員会への保護者のさらなる参加呼びかけや、発表や講話の配信などを含め、家庭への啓発も継続していく。
家庭・連携	<p><情報発信を行い、家庭教育の充実を図る></p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新、コドモンの発信、各種たよりの発行を積極的に行っていると感じている保護者を90%以上にする。 学校の様子がよくわかると感じている保護者を90%以上にする。 学校と家庭、地域が連携し、三位一体で教育を行うことを目指し、学校と家庭、地域が連携して子どもを育てていると感じる保護者を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、ホームページをリニューアルし、定期的に更新している。また、生徒の活動の様子や各種たより、保護者への連絡においてコドモンを積極的に活用した。そのため、保護者アンケートでは95%が肯定的な回答であった。 学校・家庭・地域が連携して子どもを育てているという項目で、肯定的な回答が86%であった。2学期はPTA行事や地域に貢献する行事等も予定しているため、広報などを通じて、広く地域に発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> コドモンの積極的な活用により、保護者アンケートでは95%が肯定的な回答であった。今後はPTA役員会などでも話し合っ、コドモンでの配信と紙での配付の棲み分けを行っていく。 学校・家庭・地域の連携及び子どもの生活習慣での課題を明らかにする点では、中間評価より10ポイント以上下回る結果となった。2学期はPTA行事や生徒会行事などを数回実施し、広報でも紹介したが、保護者の参加人数や生徒の活動の紹介という点では周知不足を感じた。また、生徒の生活習慣の課題など一方通行で知らせている場合が多いため、今後保護者の意見や協力を得ていかなければならない。
読書教育	<p><読書に親しみ、豊かな心を育む></p> <ul style="list-style-type: none"> 10分間の朝読書やブックラリーの時間を心静かに過ごせる環境をつくる。 図書委員会活動では、生徒の企画を大切にしながら、委員会活動を活性化させる。 月に一度、図書委員が校内放送を用いて、全校生徒に向けてお勧めの本を朗読することで、読書活動を積極的に推進する。 学級文庫を充実させることで、生徒が様々なジャンルの本を読む機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ブックラリーは、図書委員の生徒が選んだ本を、朝の時間を使って全校生徒で読みきかせをする（校内放送）ことで、生徒同士の会話の話題の一つになっている。そのため、今後も続けていく予定である。 図書委員の活動では、各クラスに学級文庫40冊を配置し、委員会の度に入れ替えを行った。今後も、学級文庫の管理、運営を委員会中心に行っていく。 図書委員会の活動において、図書の利用促進のため、各図書委員がお勧めの本のPOP作りを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ブックラリーは読書の幅を広げる活動のため、今後も続けていく予定である。 1年生は、2学期の初めに図書館オリエンテーションを行った結果、学校図書館の使い方を学習し、興味のある本を手にとることができるようになった。 2学期の平均貸出冊数は、1年9.3冊と昨年度に比べて伸びている。しかし、2年4.6冊、3年2冊と大変少ないことが課題である。長期休業の前に貸出の促進を図る。 後期図書委員会では、来館人数を増やすために毎月イベントを行った。「本の福袋」や「お勧め本のPOP作り」、「図書おみくじ」など生徒が主体的に委員会を運営し、読書をするきっかけを増やすように活動することができた。
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 小中9年間を見通した取組がなされており、授業、運動会など生徒が落ち着いている。また、顔を上げてしっかりと話を聴くことができる生徒が多い。 遠いところからすがすがしい態度で丁寧な挨拶をしてくれるなど、中学校の取組が生徒の姿に表れている。 ストック運動は今後も引き続き行ってほしい。 地域と連携してできる活動の仕掛けを考えてほしい。 校内の生徒自身の活動で自分の中での気づきがあるような動機付けを行ってほしい。 家庭学習について個人差がある。学習について、自分で学ぶ力を身に付けてほしい。 働き方改革について、中間評価から年度末評価にかけて成果が見られる。 		